

## 付表

### (1) 現状把握

#### ① 学部・大学院学生の所属別性別構成と推移

平成14年度から平成18年度までの5年間の理学部、理学系研究科修士課程、博士課程の学生の女性比率は、それぞれ10%、20%、18%である。学科および専攻間の比較においては、学部で1.4%（数学科）、4.7%（物理学科）から31%（生物学科）まで、修士課程で5.2%（物理専攻）から41%（生物科学専攻）まで、博士課程で4.7%（物理専攻）から35%（生物科学専攻）までと大きな差がある。平成4年度から平成8年度、平成9年度から平成13年度、平成14年度から平成18年度の5年間ごとの女性比率の推移においては、学部はこの10年間約10%で変化していないが、理学系大学院生は修士、博士課程ともこの10-15年間に、それぞれ17%、14%から20%、18%へと漸次的に増加している。

#### ② 教員の所属別性別構成と推移

平成18年度現在の理学系研究科の女性の教授、助教授、講師、助手は、それぞれ2、4、3、7名であり、全教員数84、65、14、102名の2.4、6.2、21、6.9%に当たる。教授に関しては平成12年に初めて女性の教授が任用され、平成14年度から2名になった。全教員数の年次変化においては、平成7年度2.6%から平成12年度まで漸増して6.0%に到達した後、平成18年度まで6%前後ではほぼ一定で推移している。

#### ③ 理学系研究科意思決定機関等（研究科長、副研究科長、研究科長補佐、教育会議、学術運営委員会、諮問会その他）における性別構成と推移

平成18年度現在、理学系研究科の研究科長、副研究科長、研究科長補佐、企画室会議メンバーには女性が選出、指名されていない。ただし、教育会議に1名（27名中）、学術運営委員会に1名（平成17年度、16名中）、教育推進委員会に1名（12名中）、諮問会に2名（6名中）の女性委員が選任されている。

#### ④ 職系別・職名別の性別職員数と推移

事務職員については、平成7年度から16年度まで女性比率はほぼ55%前後で一定であったが、この2年間は減少して平成18年度現在42%である。一方技術職員は女性比率30%前後で平成7年から16年度まであまり変化がない。

#### ⑤ 教職員および女子学生、男子学生の意識調査

理学系研究科では、平成17年までに、男女共同参画に関する5回のアンケートを実施した。女子大学院生を対象として2回（平成14年、回収率37%、および、平成16年、回収率38%）、男子大学院生を対象として2回（平成15年、回収率19%、および、平成17年、回収率21%）、教授会構成員を対象として1回（平成15年、回収率54%）を行い、各構成員の意識を調査した。アンケートは、30～60項目の選択項目および自由記入項目から構成され、紙媒体を配布・回収して行った。また、調査項目に先立つ前文によって、全学や理学系における男女共同参画に関する活動を伝え、男女共同参画に関する啓発を図った。これらの調査結果は、選択項目の数値分布および個別意見を集約した後、理学系研究科のホームページを通して公表している。

#### ⑥ 男女共同参画活動状況

理学系研究科では、平成14年3月にパネルディスカッション「男女共同参画にむけて-理学系研究科の現状と課題-」を開催して男女共同参画活動を開始し、平成14年度に理学系研究科男女共同参画ワーキンググループ（WG）を設置した。その後WGは、構成員意識アンケート、ホームページ、懇談会、講習会、報告書作成、育児支援室・休憩室の設置などの活動を4年間行った。その活動を発展させるため、平成18年度に男女共同参画委員会を発足させ、男女共同参画室を設置した。

#### ⑦ 施設・設備の整備状況

平成17年度に育児支援室・女性休憩室を新たに設置し、運用を開始した。

(2) 統計データ

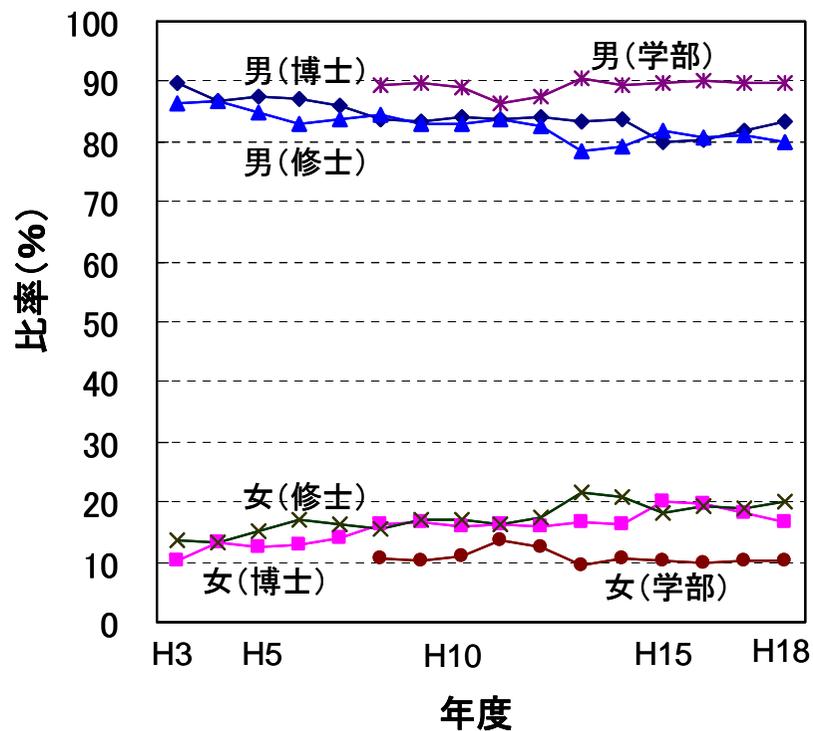


図1. 学部、大学院の男女学生比率の推移

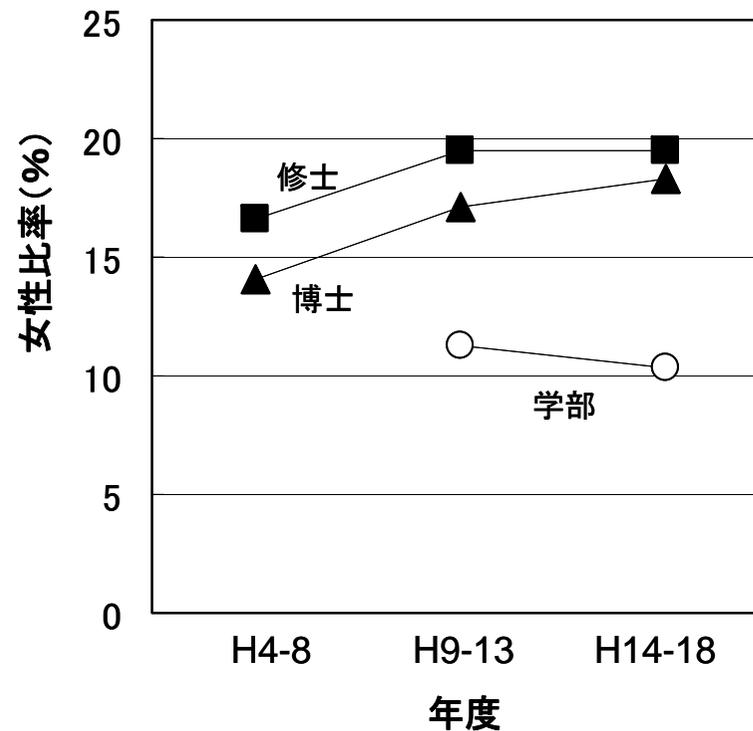


図2. 学部、大学院学生の女性の割合の5年ごとの推移

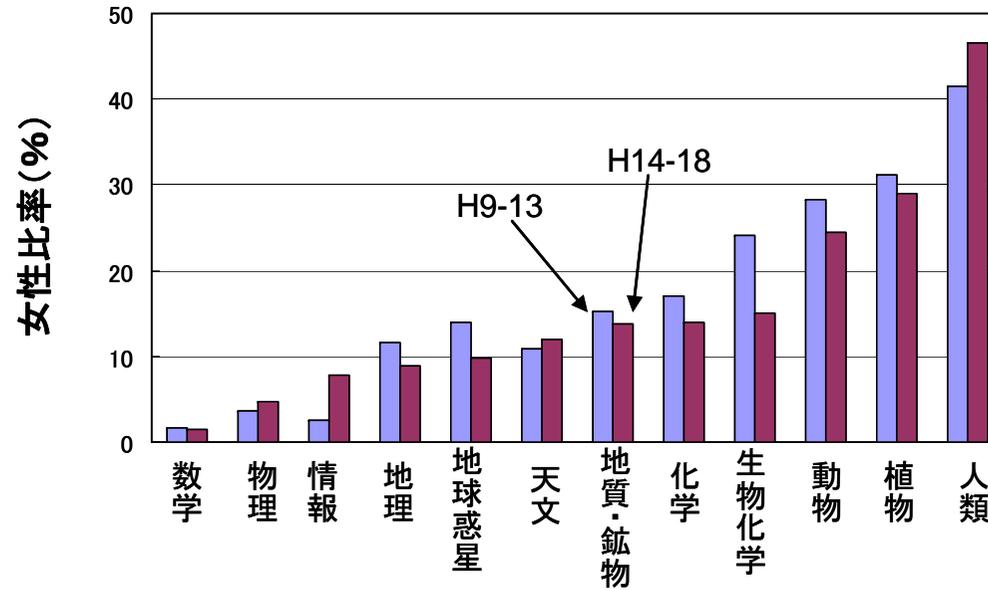


図3. 各学科の学部学生の女性比率

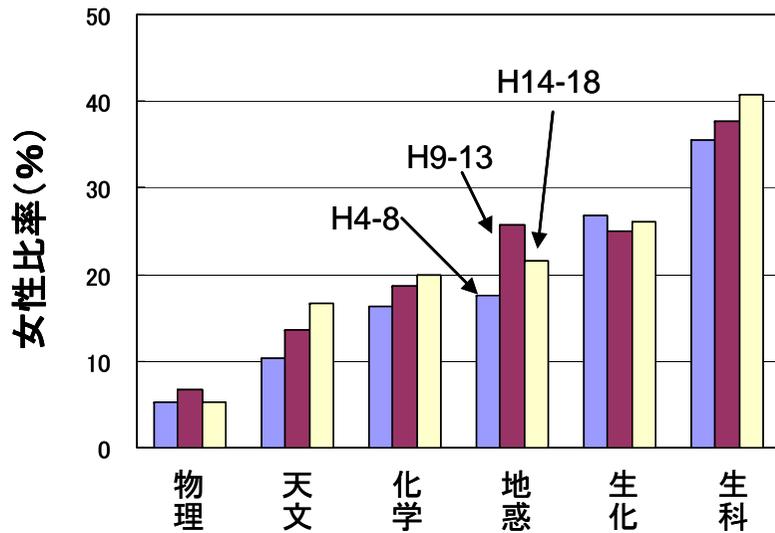


図4. 各専攻の修士学生の女性比率

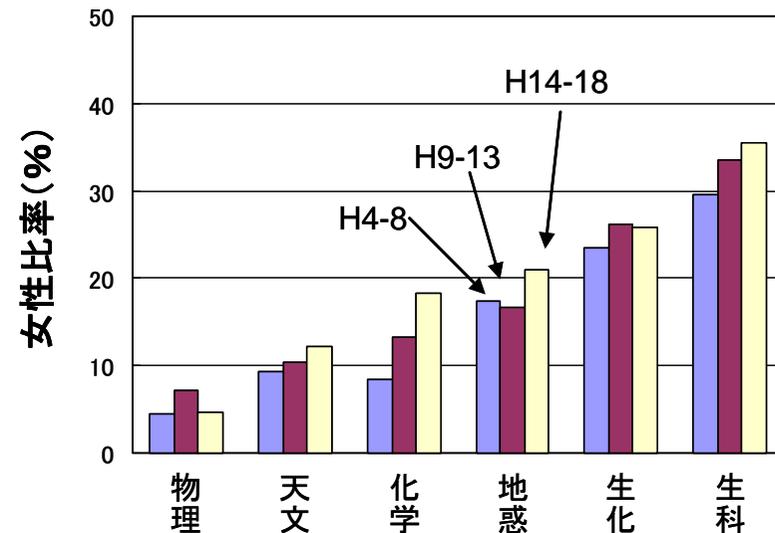


図5. 各専攻の博士学生の女性比率

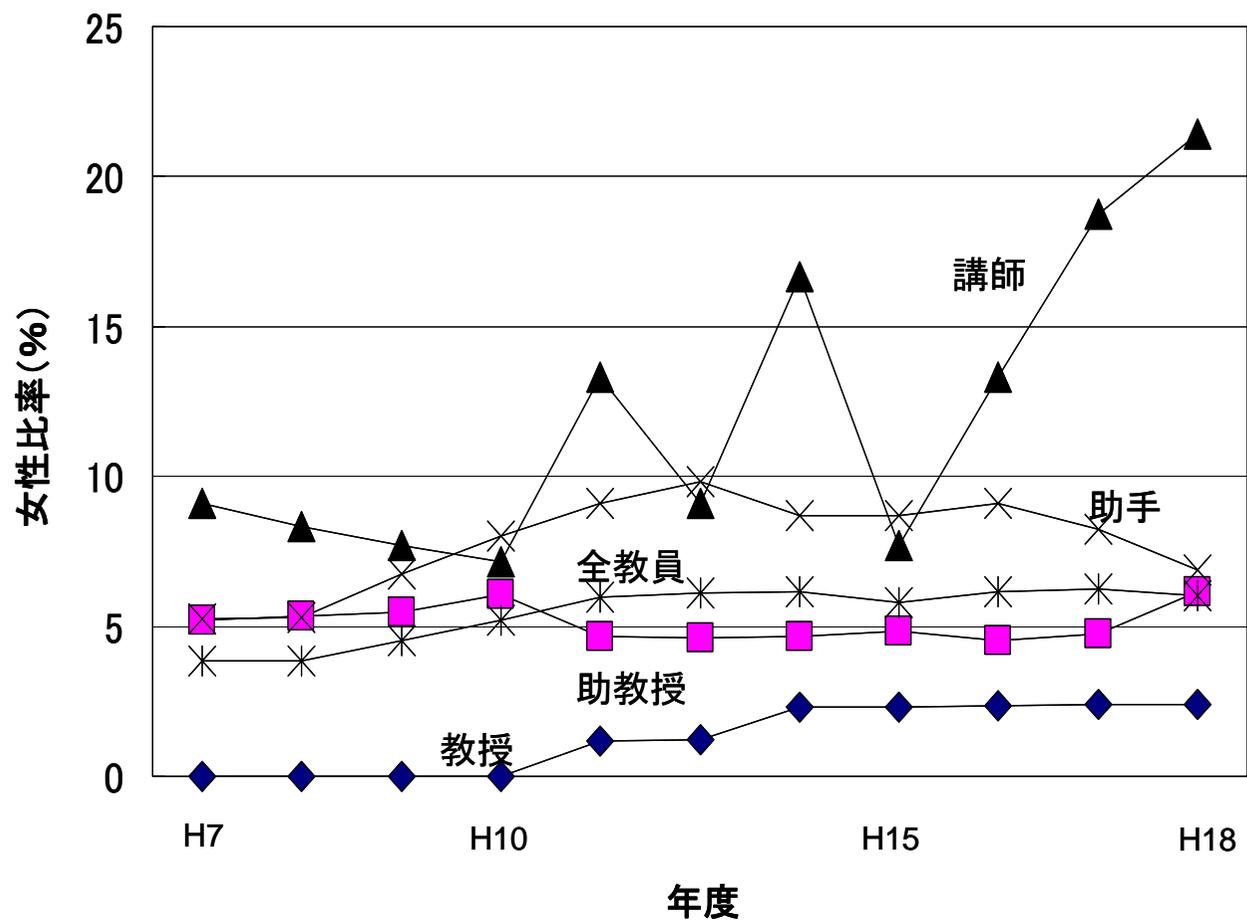


図5. 教員の男女学生比率の推移

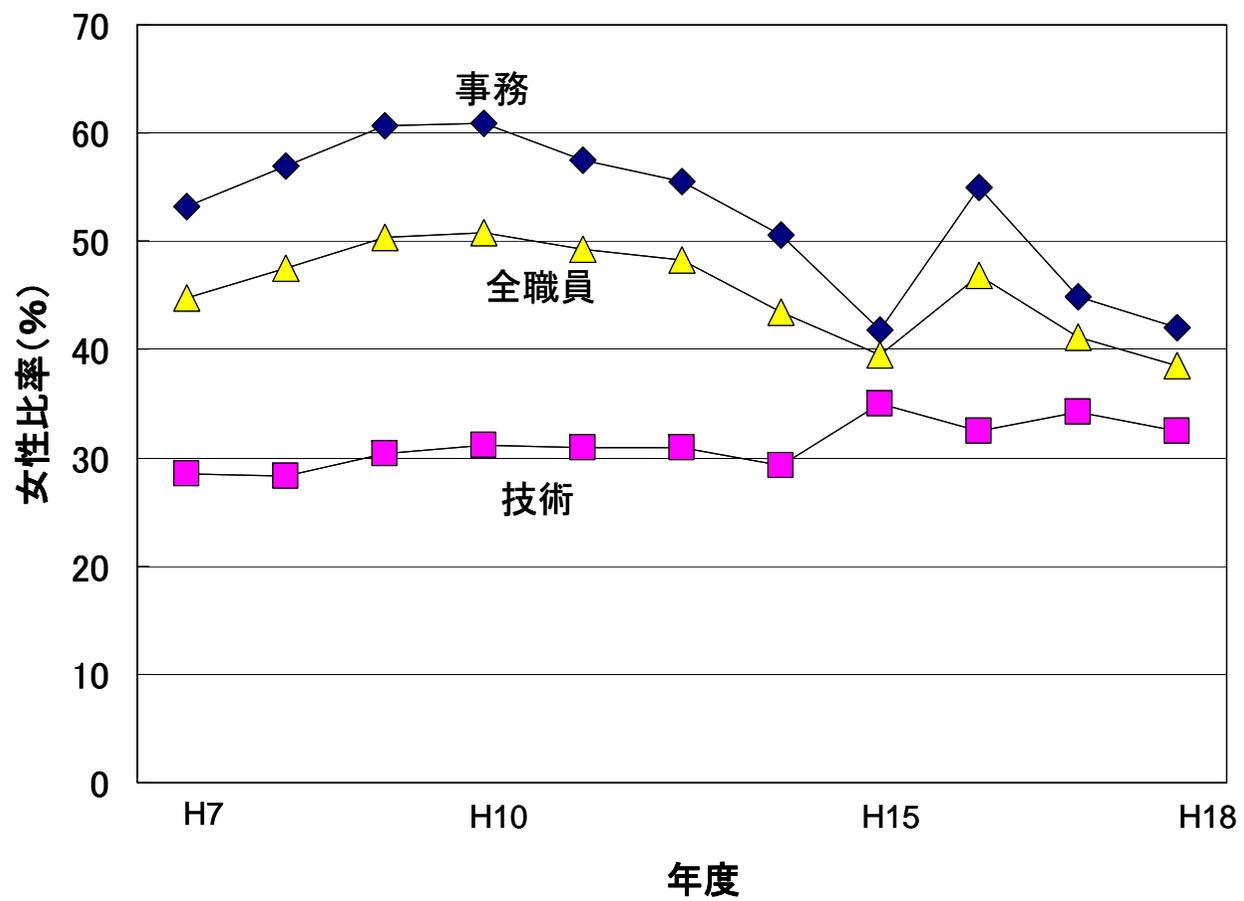


図5. 職員の男女学生比率の推移